

Weekly Michael's News

2016年5月24日発行 No.1

<今週の聖句>

「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」（ガラテヤの信徒への手紙 5:13）

<キリスト教センターの活動を身近にお知らせ!!「Weekly Michael's News」をよろしく!!>

KIUの皆さん、こんにちは!! 神戸国際大学のキャンパス内、海側の西側隅に位置していますキリスト教センター、そこでチャプレンを務めております中原 康貴（なかはら やすたか）と野間 光顕（のま みつあき）と言います!! この度「キリスト教センターの働きを一人でも多くの皆さんに知ってもらいたい!!」という願いから、チャプレン通信「Weekly Michael's News」（略して「WMN」）を週刊で発刊する運びとなりました!! キリスト教センターは、お昼の礼拝を基本としながら、入学式・卒業式などの大きな学院行事から留学生の歓迎会、運動部の壮行礼拝など様々な働きを担当しています。それらをお知らせしていく事で、皆さんのKIUライフがもっと明るく豊かなものになればいいな…そんな願いを込めています。また名前の「Michael」（ミカエル）は、KIUのマークにも記されている天使の名で、神の愛と情熱で熱く燃えている事から「熾天使」と呼ばれています。カッコよくないですか!? 目を通して頂いて紙面を盛り上げるための 忌憚のないご意見・感想をお寄せ頂ければ幸いです。



よろしくお祈りします!!

<一日たった 15分の礼拝。その積み重ねがあなたを大きく変える力になる!!!>

キリスト教センターの働きの土台、基本中の基本はズバリ!!「昼の礼拝」です。月曜日から金曜日まで、お昼休みの13:00~13:15の間に行われる、たった15分の短い礼拝です。しかし!! この礼拝が昨年ぐらいから大きな変化が生まれてきている事を皆さんはご存じでしょうか!? そう!! 出席者数が爆発的に増加しているのです!! ちなみに2016年4月は、平均出席者数が35,2人、最も多い時は70名を超えて (!!)チャペルがほぼ満員になるぐらいの勢いでした!! そんなに人数が増えた理由は何でしょうか? AOのポイントが付く、ゼミの教授



から出席するように言われた等々…理由は様々ですが、それでもチャプレンとして一人でも多くの人と礼拝が行える事ほど嬉しい事はありません。

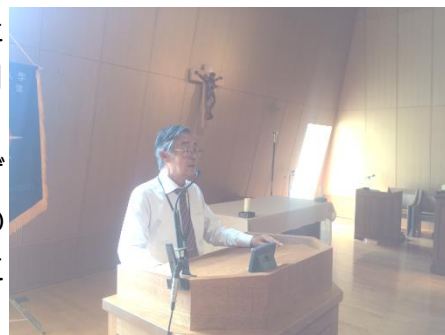
昼の礼拝では、今年からほぼ全員の専任教員に、お話を頂くようお願いをしています。KIUには、色々な方面の専門的知識や経験をお持ちのユニークな先生方がたくさんおられます。普段、あまり接する機会がなくても、この15分の礼拝で人生を大きく変えるような出会いが与えられるかも…? 先生方、職員の皆様方もお忙しいとは思いますが、ぜひご参加下さい!! キリスト教センターのチャペルは、可能性と出会いのチャン

静寂の中で見えるものは… スと成る扉を開いて、あなたの参加を心からお待ちしています!!

5月12日(木) 佐藤 信友(キリスト教センター職員)

テーマ:「贈り物」

数多くあるクリスマスの物語、中でもイエスに贈り物を捧げた3人の博士のエピソードは特に有名であるが、もう一人、4人目の博士がいた事を皆さんは知っているだろうか? 名前は「アルタババン」という。彼は、人助けをする為に集合時間に遅れ、捧げるはずだった宝物も困っている人にあげてしまう。もはや人生の目的を失い、その場に倒れこんでしまったアルタババンの耳にイエスの声が聞こえてくる。「ありがとうアルタババン。苦しんでいる人、困っている人にしたあなたの小さな親切は、全て私に対して行った事だ…。」私達も、「捧げる」生き方、「仕える」姿勢を大切にしたい。



5月16日(月) 前田 次郎(八代学院 理事長) テーマ:「友とは何か」

「情報機器が発達した時代に生きる若者は、それらに振り回され自分を見失う事が多い」という新聞記事があった。便利な時代に見えるが、気の毒なことだ。そのような私達に対してイエスは真の友に関する有名な言葉「友の為に命を捨てること。これ以上に大きな愛はない。」を残している。神戸国際大に集う私達も、互いに愛し合う生き方を大切にしたい。

5月17日(火) 中原 康貴(チャプレン) テーマ:「死んだらどうなる?」

学生時代の恩師に「死を考える事は、生を考える事だ」と言われ、真剣に悩んだ事があった。死とは何か? 死んだらどうなるのか? 実際の所は誰も分からない。「死後の生命は賭けだ」とパスカルは言う。「死後の生命がある」方に賭けて生き、その結果、実はそれが存在しなかったとしても「あなたは何も損をしないではないか」というパスカルの説明に私は納得する。死を目前に据えながら、今をどう生きるか? これこそ「死を考える事は、生を考える」事だ。

5月18日(水) 具 滋承(経済学部) テーマ:「KIUでの出会い」

高校と大学の違いは何だろう? 制服の有無や担任の存在など色々あるが、大きな違いの一つが「教科書がない」事だろう。高校までは教科書や参考書を中心に事柄を覚える事が中心だが、大学では机上を離れ、幅広い学びを積み重ねながら自分の中に絶対的価値観を確立することが求められる。そこではこれまで経験した事のなかった様々な出会いが生まれる。特に、KIUではこのチャペルで神との繋がりが与えられている。それをただの運や縁に留めるのではなく、自分の人生を豊かにする繋がりにして欲しい。

5月19日(木) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「言葉の魅力」

全日本バレーの活躍が報じられているが、その立役者に情報分析を担当する渡辺啓太さんの存在がある。彼は、試合に必要なデータだけではなく、毎日の練習の前に、選手の心に火を灯し、モチベーションを上げるような名言や格言をコート入り口に張り出しているそうだ。私たちが毎日、何気なく使っている言葉。聖書やキリスト教は、ここに神の力が宿っていることを本気で信じ、その中で互いのコミュニケーションを大切にしてきた。情報化社会、言葉が洪水のように行き交う現代社会に生きる私達。しかし、放つ言葉、受け止める言葉一つひとつを大切にしたい。